

この評価ソフトは、改正省エネ基準の経過措置が終わる2015年3月までの期間限定で使用できます。

CASBEE 新築[簡易版]

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2010年追加版Ver.2 (BPI/BEI対応) | 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2010bpi&bei(v.2.11)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	近大 外国語・国際系学部	階数	地上4F
建設地	大阪府東大阪市	構造	RC造
用途地域	第2種住居地域、準防火地域	平均居住人員	400 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	1,600 時間/年
建物用途	学校	評価の段階	竣工段階評価
竣工年	2016年3月 予定	評価の実施日	2015年1月25日
敷地面積	86,710 m ²	作成者	(株)NTTファシリティーズ 田中裕介
建築面積	976 m ²	確認日	2015年1月30日
延床面積	3,424 m ²	確認者	(株)NTTファシリティーズ 畠山文隆



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 3.0 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 4.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.7

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 4.0

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 4.5

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.9

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.3

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 4.1

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

3 設計上の配慮事項

総合	その他
近畿大学のグローバル性を牽引する新たな学部として、教育環境の向上に寄与する配慮を積極的に行う。さらに今後のキャンパスの変化に追隨する拡張性への配慮や、災害時でも最低限の学習環境継続が可能な配慮も行う。	・地域産業である「ものづくりのまち」東大阪の町工場と連携 ・緑化と一体としてのシンボルである近畿大学赤レンガ西門廻りを機能修繕し保存
Q1 室内環境 ・高い昼光率や昼光利用設備、自動整備ブラインド等、自然光を制御し、より良い使用環境と省エネ効果に配慮	Q2 サービス性能 ・学内外への外国語・国際系学部発信力を高める展示ギャラリーを1Fに配置 ・今後のキャンパス拡張計画を見据えた、将来接続可能な構造・外壁形式を両面に採用
Q3 室外環境(敷地内) ・既存樹木を保存しつつ、敷地内を積極的に緑化することで、キャンパス及び周辺緑地と「緑と生物のネットワーク」を形成 ・近大らしさを計画に組み込むことで、近大が歩んできた	LR1 エネルギー ・開口部の大きい東側はホルーパーにより日射負荷低減を図る ・LED照明等の省エネルギー及び環境配慮型機器を積極的に利用 ・ダブルスキニングやエアフローウィンドウ、ペアガラス採用
LR2 資源・マテリアル ・有害物質を含まない建材種別を採用	LR3 敷地外環境 ・屋外機の屋上設置(目隠し壁)による騒音低減および景観形成

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府建築物環境配慮評価システム

大阪府の重点評価(結果)

Osakafu-新築・既存2010V1.03

【建物概要】	建物名称	近大 外国語・国際系学部		
	建設地	大阪府東大阪市		
	用途／区分	学校		
【評価結果】	CASBEE 総合評価			S
	CO2削減			4
	省エネ対策			4
	みどり・ヒート アイランド対策			4
	エネルギー消費量の報告			報告しない

【評価項目】				
省エネルギー対策		① CO2削減		
		② 省エネ対策		
項目		評価内容	スコア	評価
① CO2削減		CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価	3.9	4
② 省 エ ネ 対 策	外皮性能	CASBEE「Q1-2. 1. 3」のスコアによる評価	建物全体 3.0 住戸・宿泊	4
	建物の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価	5.0	
	自然エネルギーの利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価	3.5	
	設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価	5.0	
	効率的運用	CASBEE「LR1-4」のスコアによる評価	3.0	
	水資源保護	CASBEE「LR2-1」のスコアによる評価	3.4	
	エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。	報告する 報告しない	報告しない
みどり ヒートアイランド対策		③ みどり・ヒートアイランド対策		
項目		評価内容	スコア	評価
生物環境の保全と創出		CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価	4.0	4
敷地内温熱環境の向上		CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価	4.0	
温熱環境悪化の改善		CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価	3.0	
その他				
先進的技術の導入		技術の名称	考慮事項	
特に配慮した事項				